

- 問1 603年に制定された冠位十二階の制度が、それまでの日本の政治制度（氏姓制度）と比較して画期的であったとされる理由は、どのような点にありますか。 （2026年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 個人の能力や天皇への貢献度に応じて位が授けられ、地位の世襲を防ごうとした点 | 2. 身分に関係なくすべての国民に土地を割り当て、収穫した稲を税として徴収した点 | 3. 仏教を政治の道徳的規範として取り入れ、役人が守るべき役人心得を明文化した点 | 4. 地方の有力な豪族に対し、その一族の血筋に基づいて自動的に高い官職を保証した点 |
|--|--|--|---|
- 問2 7世紀初め、聖徳太子（厩戸王）らが中央集権的な国家体制を整えるために定めた、個人の才能や功績に応じて位階を授ける制度を何といいますか。 （2022年 宮城県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|----------|----------|---------|
| 1. 十七条の憲法 | 2. 班田収授法 | 3. 冠位十二階 | 4. 公地公民 |
|-----------|----------|----------|---------|
- 問3 「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗（むね）とせよ」という言葉や、「三宝（仏・法・僧）をあつく敬え」といった条文が記された法令の目的として、最も適切なものはどれですか。 （2018年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| 1. 争いを避け、役人としての心得や仏教を重んじる精神を説くため | 2. 土地や人民をすべて国家のものとし、地方支配を強化するため | 3. 律令に基づいた裁判の基準を定め、刑罰の不平等をなくするため | 4. 身分にとらわれず、才能ある人材を中央政府に登用するため |
|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
- 問4 飛鳥時代の出来事をまとめた年表において、遣隋使の派遣と同時期の国内体制の整備として位置づけられる法があります。聖徳太子（厩戸王）が役人の心得を示すために制定し、天皇を中心とした国づくりの基礎となったものを何といいますか。 （2020年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|-----------|------------|----------|
| 1. 大宝律令 | 2. 十七条の憲法 | 3. 五箇条の御誓文 | 4. 御成敗式目 |
|---------|-----------|------------|----------|
- 問5 天智天皇が政治の拠点として定めた場所は、現在の滋賀県にある琵琶湖付近に位置しています。この都の名称として正しいものを選びなさい。 （2021年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|--------|-----------|
| 1. 難波宮 | 2. 大津宮 | 3. 藤原京 | 4. 飛鳥浄御原宮 |
|--------|--------|--------|-----------|
- 問6 7世紀後半、日本（倭国）は朝鮮半島への出兵で大敗したことをきっかけに、急速に国家体制の整備を急ぐこととなりました。この時期の歴史的な流れについて説明した文として、正しいものはどれですか。 （2020年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利したことで、日本は朝鮮半島での影響力を強め、その記念として藤原京を造営した。 | 2. 藤原京を造営した後に白村江の戦いが起き、その混乱に乗じて壬申の乱という後継者争いが発生した。 | 3. 壬申の乱で勝利した持統天皇が、百済を救援するために白村江の戦いを引き起こし、その戦費をまかなうために藤原京から平城京へ遷都した。 | 4. 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。 |
|---|---|---|---|
- 問7 聖徳太子が建立した法隆寺に代表される、日本で最初の本格的な仏教文化について、その名称として正しいものを選びなさい。 （2024年 三重県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 国風文化 | 2. 東山文化 | 3. 飛鳥文化 | 4. 天平文化 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問8 飛鳥時代に建立された法隆寺とその文化について、当時の政治や社会背景を説明した文として最も適切なものを次のうちから選びなさい。 （2021年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 聖武天皇が国内の疫病や政情不安を鎮めるため、全国に国分寺を建てる一環として建立した。 | 2. 最澄が唐から持ち帰った新しい仏教を広めるため、比叡山に修行の場として建立した。 | 3. 聖徳太子が仏教の力で国を治めようと考え、大陸の技術を取り入れて建立した。 | 4. 蘇我氏が天皇をしのぐ権力を示すため、日本で最初の大寺院として大阪の地に建立した。 |
|---|--|---|---|
- 問9 7世紀の飛鳥時代、日本（倭）は百済の復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江の戦いにおいてある2つの国の連合軍に大敗しました。この時、日本が対戦した連合軍の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。 （2018年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 隋と高句麗 | 2. 宋と新羅 | 3. 唐と新羅 | 4. 元と高麗 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問10 古代の日本が、朝鮮半島の百済と緊密な外交関係を維持していた歴史的な背景や影響について、適切に説明しているものはどれですか。 （2018年 岐阜県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--|---------------------------------------|
| 1. 百済が唐と結んで朝鮮半島を統一したため、日本は律令制度を導入した。 | 2. 百済が大和政権を軍事的に支配し、高句麗への進出拠点として利用した。 | 3. 百済が大和政権と連携して高句麗などに対抗する中で、日本に仏教や儒教が伝わった。 | 4. 百済からの亡命者が新羅と協力したことで、日本に漢字が初めて伝わった。 |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--|---------------------------------------|
- 問11 飛鳥時代の外交と国防に関する記述として、白村江の戦いによる敗戦がその後の日本の政策に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 （2018年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 元（モンゴル）の襲来を警戒し、博多湾の沿岸に石造りの防塁を築いて、全国の御家人を組織した。 | 2. 清の軍事力に対抗するため、欧米の技術を導入して近代的な軍隊を組織し、江華島事件をきっかけに海外進出を始めた。 | 3. 唐や新羅の侵攻に備え、九州に水城や防人を配置するとともに、都を近江の大津宮へ移して国内の守りを固めた。 | 4. 大陸との交流を完全に断つため、遣唐使を廃止して国風文化を振興し、武士の力による独自の防衛体制を整えた。 |
|--|---|--|--|
- 問12 飛鳥時代、聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した歴史的背景と目的の説明として、最も適切なものはどれですか。 （2021年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 白村江の戦いでの敗北を受けて、唐や新羅の侵攻に備えた外交交渉を行うため。 | 2. 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。 | 3. 菅原道真の提言に基づき、形式的な外交を廃止して国内の政治改革に専念するため。 | 4. 阿倍仲麻呂を隋の皇帝に紹介し、日本の律令制度が完成したことを報告するため。 |
|---|---|---|--|
- 問13 飛鳥時代から平安時代にかけて、日本の朝廷は先進的な制度や文化を学ぶために中国へ使節を派遣しました。この使節の名称にも使われており、日本の律令国家形成に大きな影響を与えた中国の王朝名を選びなさい。 （2023年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 隋 | 2. 唐 | 3. 宋 | 4. 元 |
|------|------|------|------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 個人の能力や天皇への貢献度に応じて位が授けられ、地位の世襲を防ごうとした点	それまでの政治体制では、特定の有力豪族が代々特定の官職を世襲する「氏姓制度」が一般的でした。冠位十二階は、個人の「才能」や「手柄」を基準に位を与える仕組みであり、家柄よりも個人の資質を優先することで、天皇による中央集権的な統治体制を強化する狙いがありました。
問2	答え 3 冠位十二階	この制度は、従来の家柄によって地位が決まる仕組みとは異なり、個人の實力を評価して役人を登用することを目的に導入されました。儒教の徳目に基づいた名称の冠を授けることで、官僚組織の基礎を築こうとした飛鳥時代の重要な改革の一つです。
問3	答え 1 争いを避け、役人としての心得や仏教を重んじる精神を説くため	十七条の憲法の第一条には、豪族同士の争いを戒める「和をもって貴しとなす」という言葉が、第二条には仏教への信仰を促す「あつく三宝を敬え」という内容が記されています。これらは、勢力争いを続けていた豪族たちをまとめ上げ、天皇を支える役人としての自覚を持たせることを目的としていました。人材登用を目的とした「冠位十二階」や、土地・人民の公有化を目指した「公地公民」の考え方は区別して理解する必要があります。
問4	答え 2 十七条の憲法	聖徳太子（厩戸王）は604年にこの法を定めました。これは現代の憲法とは異なり、役人（官吏）が守るべき道徳や政治の心得を説いたものです。第一条の「和をもって貴しとなす」という言葉が有名であり、豪族たちの争いを鎮め、天皇に従う体制を整える目的がありました。
問5	答え 2 大津宮	中大兄皇子は、唐や新羅の侵攻に備えた防衛体制を整える中で、都をそれまでの飛鳥から滋賀県の琵琶湖近くにある大津宮（近江大津宮）へと移しました。この地で天智天皇として即位し、日本初の全国的な戸籍の編纂や、近江令と呼ばれる法令の制定など、国家体制の整備を進めました。
問6	答え 4 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した倭国は、大陸からの侵攻に備えて防衛を強化するとともに、強力な中央集権国家を形成する必要に迫られました。その後、672年に起きた壬申の乱に勝利した天武天皇、およびその跡を継いだ持統天皇によって、日本初の本格的な都城である藤原京の造営が行われ、律令国家の仕組みが整えられていきました。
問7	答え 3 飛鳥文化	7世紀前半、聖徳太子が政治を執り行った時代を中心に栄えた文化を飛鳥文化と呼びます。法隆寺の建築や仏像などには、中国の南北朝時代の文化や、さらに西方のインドやギリシャの影響も見て取ることができます。
問8	答え 3 聖徳太子が仏教の力で国を治めようと考え、大陸の技術を取り入れて建立した。	飛鳥時代は、聖徳太子や蘇我氏が中心となって、大陸の進んだ制度や仏教を積極的に取り入れた時代です。法隆寺の建立はその象徴であり、仏教を中心とした国づくりを目指す政治的背景がありました。聖武天皇による国家鎮護は奈良時代の「天平文化」、最澄による活動は平安時代の「弘仁・貞観文化」の説明です。
問9	答え 3 唐と新羅	663年、日本は同盟関係にあった百済を助けるために水軍を派遣しましたが、白村江（はくすきのえ）において、当時朝鮮半島で勢力を拡大していた新羅と、それを支援する唐の連合軍に敗北しました。この敗戦により、日本は朝鮮半島における拠点を完全に失うこととなりました。隋は白村江の戦いの以前に滅亡しており、元や高麗は中世（鎌倉時代）の勢力です。
問10	答え 3 百済が大和政権と連携して高句麗などに対抗する中で、日本に仏教や儒教が伝わった。	百済は大和政権にとって、朝鮮半島の高度な文化や技術を取り入れる重要な窓口でした。百済側も、軍事的に強大な高句麗や近隣の新羅に対抗するため、日本との友好関係を重視しました。この互恵的な関係によって、仏教伝播をはじめとする大陸文化の流入が促進されました。
問11	答え 3 唐や新羅の侵攻に備え、九州に水城や防人を配置するとともに、都を近江の大津宮へ移して国内の守りを固めた。	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した中大兄皇子（天智天皇）は、日本への報復的な侵攻を強く警戒しました。そのため、九州の太宰府付近に水城（みずぎ）や大野城などの城を築き、東国から徴集した防人（さきもり）を配置して国境の警備を強化しました。また、都を飛鳥から内陸の大津宮（現在の滋賀県）へ移したのも、防衛上の理由が背景にあります。
問12	答え 2 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定し、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を図っていました。遣隋使の派遣は、その改革のモデルとなる中国の高度な政治制度や、国家の精神的支柱としての仏教を学ぶための重要な外交手段でした。選択肢にある菅原道真は遣唐使の停止を提言した人物であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として渡った人物なので、時代や背景が異なります。
問13	答え 2 唐	聖徳太子の時代の遣隋使に続き、日本では大化の改新から平安時代の中期にかけて「遣唐使」が派遣されました。日本はこの王朝の優れた政治制度である律令や、仏教、儒教などの文化を吸収することで、中央集権的な国家体制を整えていきました。選択肢にある隋は唐の前の王朝、宋や元は唐よりも後の時代の王朝です。